

会 議 要 旨

会議の名称	第5回川越市介護保険事業計画等審議会								
開催日時	令和7年8月19日(火) 14時00分 開会 ・ 15時20分 閉会								
開催場所	川越市医師会館 4階講堂A～C								
議長	齊藤正身会長								
出席委員 (19名)	小林範子委員、小島委員、糸委員、池浜委員、田畑委員、 高橋委員、柴崎委員、川越委員、平島委員、山寄委員、 柴委員、益子委員、阿久澤委員、長峰委員、宮根委員、 村田委員、鈴木委員、中原委員、横堀委員								
欠席委員 (2名)	西村委員、小林松十郎委員								
事務局職員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">高齢者いきがい課</td> <td>三佐崎参事、宮澤副課長</td> </tr> <tr> <td>介護保険課</td> <td>中村課長、新井副課長、 長澤主幹、君島副主幹、</td> </tr> <tr> <td>健康づくり支援課</td> <td>千葉課長、松百副主幹</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア推進課</td> <td>富田参事、神立副課長、内藤主幹、 丸山主査、望月主任</td> </tr> </table>	高齢者いきがい課	三佐崎参事、宮澤副課長	介護保険課	中村課長、新井副課長、 長澤主幹、君島副主幹、	健康づくり支援課	千葉課長、松百副主幹	地域包括ケア推進課	富田参事、神立副課長、内藤主幹、 丸山主査、望月主任
高齢者いきがい課	三佐崎参事、宮澤副課長								
介護保険課	中村課長、新井副課長、 長澤主幹、君島副主幹、								
健康づくり支援課	千葉課長、松百副主幹								
地域包括ケア推進課	富田参事、神立副課長、内藤主幹、 丸山主査、望月主任								
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ○第5回川越市介護保険事業計画等審議会 次第 ○【資料1】第4回川越市介護保険事業計画等審議会(会議要旨) ○【資料2】第10期計画策定に向けた各調査について ○【資料3】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(案) ○【資料4】保健・福祉等実態調査(案) ○【参考資料】第10期計画策定に向けた審議会スケジュール(案) <p>当日配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○名簿 ○令和4年度の前回の調査票から抜粋した表紙、裏表紙、オンライン回答の案内 ○【チラシ】医療介護フォーラム ○【冊子】よくわかる在宅医療&介護 								

	議 事 の 経 過
	<p>1 開 会</p>
	<p>2 あいさつ 齊藤会長よりあいさつ</p>
	<p>3 報 告 (1) 第4回川越市介護保険事業計画等審議会について 【資料1】、【資料2】を基に事務局より報告</p>
会長	<p>事務局からの報告に対して意見はあるか。 (意見等なし)</p>
	<p>4 議 事 (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について 【資料3】を基に事務局より説明</p>
会長	<p>事務局からの説明に対して意見はあるか。</p>
委員	<p>市としての考え方の方向性について、対象者数の中に、回収率62%という記載があるが、調査目的を達成するためには、より高い回収率としていかなければならないと思う。 回収率を上げる工夫や対策を推進していかなければならないと考えている。具体例としては、お年寄りの場合は活字が小さいと読みにくく面倒だと思われるため、活字を大きくしたり、現状把握のためのチラシや資料を同封したり、郵送で回答する場合は返信用の切手を予め貼るなど、そういった類のものがあると思う。現状としてはどのような対策、工夫をしているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>調査票については、委託業者とこれから詰めていくが、活字等のポイントは大きくするなど、工夫していきたいと考えている。 また、郵送での回答については、返信用封筒を同封し、料金は市で負担する。 周知方法については、9月1日に、民生委員児童委員協議会連合会の理事会があり、そこで事前にこのような調査を実施する旨、説明する予定である。</p>

委員	<p>資料3の1ページ【重点目標1～3に対するアウトカム指標例】の【重点目標3】に、「認知症の人が自分らしく暮らせると考えている認知症の人及び国民の割合」とあり、「認知症の人」という言葉が2つ重なっている。その下の文章も同様のため、この「認知症の人が」や「認知症の人の」の文言は不要ではないか。</p> <p>2つ目に、問4-9の回答方法が主なものを一つ選択する方法であるが、選択肢として色々な場所があり、人によっていくつか安心できる場所があるのではないか。</p> <p>問4-1「日常生活で困っていることはありますか（いくつでも）」では、複数回答としているが、問4-9を単数回答にしたのは、何か意図があるのか。最後に、本日の配布の参考資料によると、回答方法として「郵送回答」と「オンライン回答」の2つがあり、両方に回答してしまう方がいる可能性があるため、その辺のチェックはできるのか。この3点について伺いたい。</p>
事務局	<p>まず1つ目、認知症のアウトカム指標例であるが、国が示している文をそのまま記載している。</p> <p>2つ目、問4-9が単数回答となっている記載理由であるが、前回調査（R4）を踏襲しているためである。委員の皆様の意見の中で、複数回答の方が良いとなれば、変更したいと思うため、議論いただきたい。</p> <p>最後に、「郵送回答」と「オンライン回答」については、前回調査（R4）でも重複して回答する方はいたが、どちらの回答を優先するのか委託業者から事務局に連絡が来ることになっていた。今回も同様の対応を考えており、1人が2つの回答をすることはできない。</p>
会長	<p>2つ目の問4-9の回答数は、落ち着く場所は一つとは限らないため、複数回答として良いと思うが、いかがか。</p> <p>（意見等なし）</p>
会長	<p>では、そのように修正する。</p> <p>その他はいかがか。</p>
委員	<p>資料3、1ページ、アウトカム指標に「主観的幸福感の向上」を挙げている点について、主観的幸福感の高い人の特徴や幸福感の向上に何の関係しているのか、把握は難しいが、把握のために、国の項目に比べ、市の項目が非常に細かく書かれているのは、大変良いと思う。</p> <p>人間がどうやって生きていったら長く生きていけるとか、人間の存在みたいな難しい話だと思うが、何かに対して強い関心を持ち続けるということが、幸福をその人にもたらすことになるのかと思う。この場合は、必ずしも地域や人などに繋がるばかりではなく、例えば動物やペットを飼う、自然に触れるなど色々なことがあると思う。そういったことを考えると、集</p>

事務局	<p>団で賑やかに過ごすことが幸せな人がいれば、個人で過ごすことが幸せな人もいると思う。このような具体的な内容が何か指標に入ると良いのではないかと思う。</p> <p>主観的幸福感の指標の設定は難しいと思っており、そのことについて、どのように考えているのか伺いたい。</p> <p>今回用いているものが、世界保健機関WHOの「精神的ウェルビーイング」と高齢者の社会的孤立をスクリーニングする尺度として、国際的に広く使用されている「ルベンソーシャルネットワークスケール」というもので、主観的幸福感を測定できるものと分かり、今回の設問に追加している。</p> <p>問 4-8 の「生きがいがありますか」については、「生きがいあり」を選択した場合は、具体的な内容について記載できる欄を設けている。</p>
委員	<p>先ほど 9 月 1 日の理事会の場で説明していただけるということであるが、今後、各地区民協でも詳細は説明していただけるのか伺いたい。</p>
事務局	<p>必要に応じて説明させていただければと思う。</p>
委員	<p>各地区の理事 22 名全てが、理事会に出席するが、その辺りの日程調整をする必要がある、その辺に関してはいかがか。前回（3 年前）も同様の説明会はあったのか。</p>
事務局	<p>前回はこの理事会で説明させていただき、協力をいただいている。</p>
委員	<p>先ほどの事務局の説明は、市民から担当者（民生委員）に問い合わせがあった際は、それに対して答えるという形であったが、説明は理事だけではなく、担当者にしていただかないと分からない。そのため、地区民協での説明も検討願いたい。</p>
事務局	<p>調査は高齢者の方を対象としているため、民生委員の方に「これは本当に市役所からなのか。」などの相談が来ると思われる。</p> <p>民生委員の方に、調査内容を説明していただきたいというわけではなく、「このような調査を今、川越市が行っている。分からなければ、地域包括ケア推進課に問い合わせしてください。」との案内をしていただきたい。</p> <p>問い合わせいただければ調査の概要等については、市から説明させていただく。</p>
委員	<p>4 ページ、国の必須項目である問 3-2 では「半年前に比べて～」とあり、国のオプション項目である問 3-3、問 3-4 では「半年前」や「半年前に比べて」という言葉が入ってない。また、問 3-6 では「6 か月間」と半年間の</p>

	<p>基準を示しているため、問 3-3、問 3-4 に「半年前に比べて」のようにした方が答えやすいと思う。</p> <p>次に、問 3-5 で歯のことの設問があり、オーラルケアはこれから大事なことと思っており、「定期的に歯科受診をしているか」のような設問を新たに追加しても良いと思うが、どのように考えているのか。</p> <p>次に、3 ページの問 2-9、問 2-10 で、買い物と通院のための移動の設問で、「どのくらい困っているのか」を尋ねており、他の設問を見ると 5 ページでは具体的に「1 人で外出している（問 4-3）」や「自分で買い物している（問 4-4）」など、動きに対してのことが他の問にもある。今回の問 2-9、問 2-10 の「移動に困っていますか」と尋ねているということは、体を動かす、動き自体に着目した設問であるという解釈で良いか。</p> <p>また、からだを動かすことについて、問 4 の日常生活で困っていることと重複すると思われ、質問項目をなるべく減らすという方向で考えていると説明していたが、どのように考えているのか伺いたい。</p>
<p>会長</p>	<p>国の必須項目や国のオプション項目であると、設問内容の変更はできないと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 ページの「からだを動かすこと」の問 2-9 と問 2-10 について、具体的に買い物と通院の移動の設問とした理由は、前回 3 年前の調査では「移動することで何が困っているか」という設問に対して、回答数が多かったものが、通院と買い物であったため、今回は、あえてこの 2 つに絞り、どのような状況なのか、深掘しようと考え、設問を設定した。</p> <p>歯の定期的な受診については、健康かわごえ推進プランの第 3 次計画が、今年度からスタートしており、その中に第 3 次川越市歯科口腔保健計画がある。歯のことに対して、「年に 1 度は歯科検診を受けます」との目標を設定しており、重複してしまうため、今回は採用しなかった。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 3 の調査（設問設定）のねらいの①に、8 期～9 期計画と始まり、2 行目の「主観的幸福感の向上を定めているが」とあり「が」は逆説を述べるときに使う助詞であり、この「定めているが」ではなくは「定めている」としたほうが良いと思うため、検討していただきたい。</p> <p>次に、12 ページの「在宅医療について」の問 11-2 に「病院に行くことが難しくなったら～」とあるが、オンライン診療など、川越市で注力して成果が上がっているのかどうか、それともシステムはまだまだこれからなのか、今後どういうことに留意していくのかなど、検討しておくことも必要と考えており、その点は、どのような考えなのか。</p> <p>もし、調査項目としてそういうものが追加できるのであれば、今後のことを考え、DX化やオンライン診療、IoT関係などについて、調査項目を追加し、指標を考えられると思うが意見を伺いたい。</p>

事務局	<p>資料3、調査のねらいにある①の表現については、検討する。</p> <p>次に、12ページの在宅医療のDX化などの質問については、どのような方法で今後の政策を進めていくのかという趣旨であると解釈している。</p> <p>今回、事務局で追加した設問については、「在宅医療」サービスを今後、利用する意向があるのかを把握するための設問であり、そこまで発展した議論は、市の中で行っていくものであると考えている。</p> <p>委員として、どのような設問項目であれば、そのようなことが市民に聞けると考えているのか教えていただきたい。</p>
会長	<p>オンライン診療は、制度としてもこれからどのようにしていくのか、非常にセンシティブなところがあるため、この調査で聞くのはいかがかなと思う。特に在宅医療を推し進めていこうという内容の部分なため、DX化等は別かと思う。</p>
委員	<p>在宅医療・介護の話でいうと、見守りに関しては、個人で使える簡易的な見守りロボットや、カメラとスマートフォンが連動する製品などがあり、設置すれば遠隔で見守ることができる。費用が掛かるのであれば、その負担を支援していく方法もあると思う。</p> <p>また、認知症状で徘徊した場合は、GPSの導入もあるが、人権侵害などの懸念が出る点については、導入前に十分な説明と配慮が必要である。</p> <p>人手が関わる部分は、IT機器、認知部分も性能が向上してきているため、それを採用していけばもう少しコストも下がると思う。</p> <p>自分自身が考えたときに、このようなものがあれば良いと思っている。</p>
会長	<p>委員が言われた始めの部分は介護分野であり、在宅医療の項目ではないことと、在宅医療に関してのオンライン診療をどれだけの医療機関が実施できるのか、実情の問題もあるため、今回の調査項目には難しいと思う。</p> <p>委員長としてその辺は整理させていただく。</p> <p>意見としては参考になる。</p>
委員	<p>先ほど委員から回収率を上げるため、設問数の精査や文字の大きさの話もあったが、参考資料にある令和4年度の調査票の表紙を見る限り、文字数が多く、かなり読み込まないと、回答できないと感じた。</p> <p>例えば、回答の方法という見出しのすぐ下に、「回答方法は「郵送回答」と「オンライン回答」の2種類があります。どちらかの回答方法をお選びください。どちらの方法でも回答内容や集計結果に影響はありません。」とあるが、先ほどの話からすれば、これはいらぬ。その下に記載のある、回答にあたっては封筒の宛名の本人について、本人なのかご家族なのか、こういった箇所も言葉が重複している。</p>

	<p>問題ないのであれば、このような箇所をどんどん絞って、極力分かりやすい言葉で文字を減らし、見やすい書式にすることで、最初のファーストステップで調査に取りかかろうという気持ちになるのではないかと思うため、検討いただきたい。</p>
事務局	<p>内容は精査して、分かりやすい表現にする。</p>
会長	<p>他にも気になるところがあれば、事務局に後ほど伝えていただき、その後、会長と副会長で整理させていただくということによろしいか。 (意見等なし)</p> <p>(2) 保健・福祉等実態調査について 【資料4】を基に事務局より説明</p>
会長	<p>事務局からの説明に対して意見はあるか。</p>
委員	<p>本調査は、川越市の独自の調査であり、市民の負担軽減の観点や40歳から64歳までの年齢層は減少傾向にある実態も踏まえ、対象者数は1圏域あたり100件とし、合計1,400件としても、十分現状把握はできるのではないか。そのため、対象者数を減らしても良いのではない。</p>
会長	<p>対象者数を減らした方が良いという根拠を再度説明してほしい。</p>
委員	<p>川越市の独自の調査ということであり、この場合、人数を減らしたとしても現状把握、いわゆる基礎資料を得る上では、さほど変わらなのではないかと考えた。</p>
副会長	<p>150件×14圏域で、1圏域毎に分析するという目的が1つあり、この中から性別や年齢別に分析していくと、どんどん母数が小さくなる。 また、回答率が高齢者の調査(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)より少し高いのか、予測できないところがあるため、1圏域150件で実施できれば良いと思う。</p>
事務局	<p>この調査については、経年で毎回このサンプル数で実施している調査のため、今回は、このサンプル数で実施したいと考えている。 次回、3年後の調査については、市独自の調査であるため、委員の皆様の意見を参考にして、実施するかどうかも含めて、検討したい。</p>
会長	<p>40歳から64歳の方々が今どのように思われているのかを把握すること</p>

委員	<p>は、今後先々を考えると非常に大事なことである。 介護サービスを利用している方と、それとは全く今は関わっていない方に認識を持っていただくためにも、この調査は大事である。 継続して実施している調査であるため、今回も同じように実施し、その結果をまたどう分析するかが大事であると思う。</p> <p>地域福祉計画や障害者支援計画は令和9年度の計画策定に向けて、本計画と同時期に調査等が実施されると思われるが、これらの内容には当然重なる部分があると思う。他の計画との関係性はどのようになっているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>調査項目については、地域福祉計画の主管課である福祉推進課の担当者とすり合わせをしている。</p> <p>障害者支援計画については、対象者が重複しないと考えているため、すり合わせはしていない。</p>
会長	<p>他にも気になるところがあれば、事務局に後ほど伝えていただき、その後、会長と副会長で整理させていただくということによろしいか。 (意見等なし)</p> <p>5 その他 (1) 今後のスケジュールについて 【参考資料】を基に事務局より説明</p> <p>「よくわかる在宅医療&介護」 「医療介護フォーラム」についての案内。</p> <p>【チラシ】医療介護フォーラム 【冊子】よくわかる在宅医療&介護</p> <p>6 閉会 次回、第6回審議会は令和8年2月10日開催予定。</p>